

平成16年度第2回 荻谷先生講演アンケート結果

回答者 20名

- ・ 文科省の役人も大学の先生も教育問題を語るなら小学校に1か月ぐらい教育実習するべきである。「視察」ではなく「実習である」！
講演自体は大変刺激的で日ごろ目の前の子供しか、見ていない自分の視野が、社会や時代の大きな名あれの中で教育を考えなければならないという、いく分大きな視野に広がるきっかけとなりました。大変ありがとうございました。勉強になりました。
- ・ データをもとに的確な意見が聞けてわかりやすかったです。1年目でわけもわからず毎日他の先生についていっているの、考えないといけないと思うことが多かった。
- ・ (手元に配布した資料の) P2「小学校の教員の方が勤務時間が短い」と受け取れるが、女性が多く家事育児(保育園のおむかえ)等があり、持ち帰り仕事をしていることにも目を向けてほしい。
- ・ あまり元気の出る話ではなかったが、これから考えていかざるを得ないことかなあと感じました。教育改革についての評価については当初のゆとり路線についての評価なのかそれを転換したことに対する評価なのか、それをトータルで考えたときの評価なのか、アンケートに答えた人がどうとらえているのか気になりました。
次回はもっと元気が出る話を期待しています。
- ・ 教育の専門以外の方の考え方は新鮮でした。
- ・ いつもありがとうございます。教員の仕事はいろいろありますが、1番大切なのは、子どもに関わること、特に授業の準備ではないかと思っています。ところがそれ以外の時間が繁雑にたくさんあります。必要なものは何か、不要なものは何か点検して、より単純にしていかなければならないと思います。今日、荻谷先生のお話を聞いて、組織として自分ができることは何か、組合活動くらいなのか、よくわかりませんが・・・教育改革で言われることは、ねらいとしては意義があります。それを実現する手立てが適正かチェックし、子どものために必要なものは何か見極めて整理することを、上はやってもらいたいです。あとデータですが、愛知でする or 岡崎で行ったら、あそこまでひどい数値がでるとは思えませんでした。他の地域の話をしると、やはりそうなのかと思いました。
- ・ 教育を取りまく状況についても勉強していかなければいけないと思った。
- ・ 教師の仕事を外から見ていろいろ分析され、自分自身、あらためて勉強になった。たまにこういうセミナーもいいですね。私たちの仕事ぶりがアカウンタブルかといわれれば、私は十分納税に見合う以上に働いているといたいです。途中休憩もなくその上17:15分まで拘束され、時間外勤務は当然持ち帰りも毎日(小学校)。主婦はいつ寝るんだ!

と言いたい。苅谷先生へ 女性教員の実感も調べて下さい。

- ・ 週休五日制がスタートして時、この五日制は教師サイド現場から出てきた意見要求と聞いているが、実際は我々に直接アンケートなり、それに向けての現場の話し合い等はなく、やはり、上から下りてきた様に私自身は感じています。確かに、五日制がスタートした頃は、土曜休みが大変うれしく休養の日と思っていました。しかし、総合・評価等、多くの新しいものが入り、現在は月～金が確かに忙しく、自主的に土曜、日曜勤務をしている方（私も含めて）が多くいると思います。また、家庭へ持ち帰る量も、増えているのも事実です。今日話を聞きセミナーに参加し、自分自身がどのようにしていくべきか、又再考するよい時間でした。（春日井、小学校）
- ・ 今回の調査結果には非常に関心を持ちました。特に自分も含め、教育改革への理解の低さを改めて感じます。理解が不十分な段階で賛成・反対はやはり無意味だと思います。また、一般財源化の問題や国家から離れることに伴う責任についての話は、今まで考えもしないことでした。これからは意識を持って取り組みたいと思います。あと、調査に対する疑問ですが、対象者の人数は信頼性がどれくらいなのでしょう。また、同じ学校や地域で質問した場合、帰宅時間など答えが同じになるのでは。さらに問いが「～になっている」とあるのは、それを意識した答えを導くのではないのでしょうか。例えば問いが「～になっていない」とすると中間層の賛成派は反対に変わってしまうのでは、と思います。
- ・ いろいろとデータを交えて教えていただけてよく分かりました。
小学校の先生が早く帰宅する割合が多いのは、主婦が多く、帰らざるをえない人が多いと言うこともあるからじゃないですか。

土日、学校に出勤していなくても、家で仕事をしている人はたくさんいると思います。

子どものことで何か問題があると、家庭のことは何も問いただされないのが不思議です。

- ・ 先生の話より、最後の質問による対話の方がよく分かったし、楽しかった。むずかしい話だったが、刺激的な話だった。
- ・ 興味深く聞かせていただきました。情報、ことばにおどらされないようにしなくてはいけないと思いました。最後のまとめで使われた「学校・教師にしかできないこと」が、公立学校の生き残る道ですね。それにしても義務教育国庫負担金制度は絶対維持すべきだと思います。

夏休み、わたしたちは出勤していつて何をやっているかということですが、現職教育や、子どもの情報交換など、全職員での話し合いを相当もっています。平常は授業におわれ、先生方と十分な話をする時間がありません。ですから、教材研究や授業準備は、夏休みといえども勤務時間が終わってから、家出やっていることが多いです。夏休みは「あすまでに〇〇をやらなければ子どもたちに迷惑をかける」といったことは多少軽減されるので、精神的な余裕はありますが、学校にいるときにはすべて学校のため、子どものための活動

をしています。自分の個人的なことは年休をとって、学校から離れて行っています。

- ・ 今までの講演とちがった視点での内容で、いろいろ細かくデータとあわせてわかりやすく話していただき大変よかったです。現場は毎日忙しく、大変なのに、今日話を聞いて、もっと現場を知ってほしいと思いました。
 - ・ 教育改革に対していつも疑問を感じています。改革を考える人は、もっと実態を理解してほしいと思うし、学校教育だけではどうしようもないくらい社会も変化しているのに、学校教育だけの責任と言われるのは納得できない。子どもを育てるというやりがいのある仕事のはずが、近年はやりがいを（やる気）をそがれること多いと思います。でも、その中でふんばらなければいけないことも事実だと感じています。
 - ・ 資料をもとにした今回のセミナーははじめてでよかった。内容も今後考えていかねばならない内容でよかった。
 - ・ 最前列の明かりを消して欲しい。プロジェクターの投影画面が薄くて見にくかったです。
 - ・ 信憑性のないデータをもとにした話でした。何が言いたいのか（思いは分かりますが）はっきり！無駄な時間でした。
 - ・ 教育改革についてどうなっているのか非常に興味深く、また分かり易いものになりました。ただ、教師力アップと直接関係しないのでは？（遠くは関係しているが）
 - ・ 普段、今回の苅谷先生のお話の内容のようなことを考えたり、議論したりすることがほとんどないので、勉強になりました。教師力アップは指導力アップととらえていたので、今回のような内容もいいなと思いました。（苅谷先生の著書を読めばいいだけのことですが・・・。）
- 今回の「司会者は・・・、ちょっと・・・？」と思いました。